

事前評価個表

整理番号	8
------	---

地域（地区）名	鬼怒川 <small>きぬがわ</small>	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	栃木県	対象市町村	宇都宮市ほか3市町 <small>うつのみやし</small>
事業実施期間	R6年度～R10年度（5年間）	事業実施主体	県、市町、森林組合等

事業の概要・目的	<p>本地区は県の中央に位置し、北は群馬県及び福島県、西は渡良瀬川森林計画区<small>わたらせがわ</small>、東是那珂川森林計画区<small>なかがわ</small>、南は茨城県にそれぞれ接する地区で、3市5町からなり、総面積は238千haと県土の約37%を占めている。</p> <p>本地区の森林面積は142千haで森林率は60%であり、このうち民有林が60千haと森林面積の42%を占める。民有林のうち、人工林は30千haと民有林の50%を占め、このうち約9割はスギ・ヒノキであり、北西部に位置する日光市を中心とした地域で素材生産が行われている。人工林の齢級構成はピークが13齢級となっており、利用期を迎えた林分が増加しているほか、間伐等を要する4～12齢級の林分が45%を占めており、増大する利用可能な森林資源の活用と適正な管理が必要となっている。</p> <p>また、本地区は、保安林率が県内の他の地区に比べて高く、木材生産の場としてだけでなく、水源涵養<small>かん</small>や土壌の保全など森林の有する公益的機能の発揮も強く求められている地区である。</p> <p>しかしながら、林業の採算性の低迷やシカ・クマによる林木への食害・剥皮被害等により森林所有者の森林施業に対する意欲は減退しており、必要な施業に遅れが生じている状況であり、森林の有する公益的機能の持続的な発揮に支障を及ぼすことが懸念されている。</p> <p>本事業は、水源涵養機能や土壌保全機能、地球環境保全機能等といった森林の有する公益的機能を持続的に発揮していくため、再生林や下刈り、搬出間伐等の森林整備を施業の集約化を図りつつ実施するとともに、これらの効率的な推進及び木材等生産機能の維持増進を図るために必要な路網整備を一体的に実施するものである。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：1,790ha</p> <p>人工造林、下刈り、枝打ち、保育間伐、間伐等</p> <p>路網整備：1,440m</p> <p>林道改良</p> <p>総事業費：1,855,946千円（税抜き1,687,224千円）</p>
費用便益分析結果	<p>B/C=3.00</p> <p>（総便益（B）=9,096,605千円、総費用（C）=3,036,380千円）</p>

評価結果	<p>必要性： 本地区は、間伐等を要する齢級の森林が約5割を占めており、森林の有する公益的機能の維持増進を図るためには森林施業を適切に行う必要があることから、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性： 路網整備による効果的かつ効率的な森林整備を推進することとしており、費用便益分析結果からも、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性： 計画的な森林整備及び路網整備により、森林の有する公益的機能及び木材等生産機能の維持増進が図られることが期待されるため、事業の有効性が認められる。</p>
------	--

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

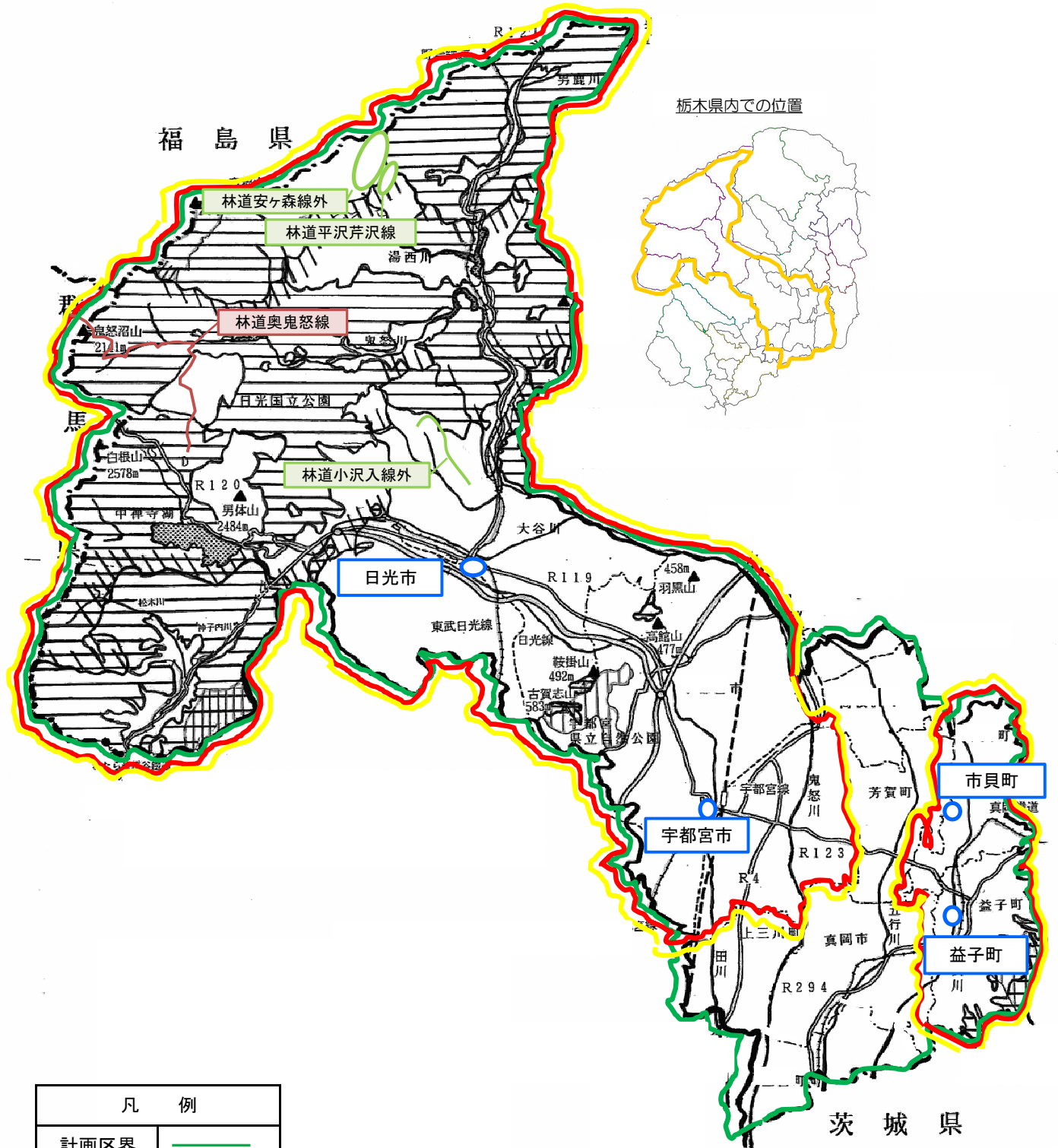
都道府県名：栃木県

地域(地区)名： 鬼怒川

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評 価 額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	2,431,686	
	流域貯水便益	597,379	
	水質浄化便益	2,304,691	
山地保全便益	土砂流出防止便益	1,826,119	
環境保全便益	炭素固定便益	417,074	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	655,033	
災害等軽減便益	災害復旧経費縮減便益	851,897	
維持管理費縮減便益		12,726	
総 便 益 (B)		9,096,605	
総 費 用 (C)		3,036,380	
費用便益比	$B \div C = \frac{9,096,605}{3,036,380} = 3.00$		

森林環境保全整備事業 鬼怒川(栃木県)



凡 例	
計画区界	—
事業区域	—
森林整備	—